

# ～子どもたちが作って・見て・学べる地域デジタルマップ～

平成28年地域政策研究センター(教員提案型・後期) 採択課題

課題名：地域情報の蓄積・可視化システムの開発及び学びや交流への活用に関する研究  
研究代表者：総合政策学部 准教授 宇佐美誠史  
研究メンバー：富澤浩樹(ソフトウェア情報学部)，渡部芳栄(高等教育推進センター)  
技術キーワード：子ども，学び，キャリア，デジタルマップ

## ▼研究の概要

盛岡市教育振興運動の重点の1つに「情報機器の適切な利用を挙げられている。他方，子どもたちは地域に関心があるが，地域情報が少なく，ゲーム等に向かっている。それらを背景に，本研究では，子どもたちの学びや交流を促す地域デジタルマップの開発することを目的とする。

## ▼研究の内容

- 1.研究フィールド，協力者：盛岡市北松園・小鳥沢地区，北松園小学校
- 2.研究期間：平成28.11～平成29.12
- 3.研究方法：子どもたちとのワークショップ(図1)，訪問調査，学校・PTA・松園地区自治協議会・松園商工会との意見交換・ご協力のもと，地域情報収集・蓄積とデジタルマップシステム開発

## ▼研究の成果

- 1.子どもたちは，地域で「食べ物や生き物，自然を大切にする力，感謝の気持ちを持ったリ，相手のことや，遊びそのものを考える力を身につけたいと思っている(図3)。
- 2.松園地区所在の事業所への職業インタビューを行い，将来について考えながら，マップのコンテンツ作りを行うことで，キャリア教育と結び付けることができた(図2)。
- 3.すでにある地域情報も収集し，フリーソフトRを活用して，地域デジタルマップを開発した(図4)。事業所等には「13歳のハローワーク公式サイト」へのリンクを貼ることで，やはりキャリア教育と結び付けている。



図1



図2

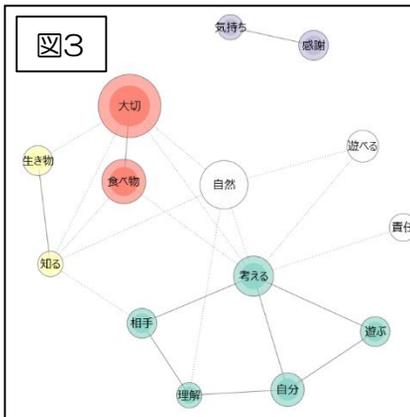


図3



図4

## ▼おわりに

- 1.子どもたちがマップ作りに関わりながら，成果を蓄積していくことで地域や職業の学びが得られる地域デジタルマップ開発ができた。
- 2.子どもたちの交流を促しているか，図3の能力やキャリアがどのように，どの程度形成されたかの検証が残された課題である。
- 3.調査実施にあたり，盛岡市立北松園小学校をはじめ，ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。